

第2期

東栄町人口ビジョン

令和2年度～令和6年度
(2020年度～2024年度)



令和2年3月

目次

1. 東栄町人口ビジョンの位置づけ	1
2. 東栄町人口ビジョンの対象期間	1
3. 東栄町人口ビジョン策定の考え方	1
(1) 第1期人口ビジョンにおける将来展望人口の考え方	1
・図表1 人口・世帯の推移	1
(2) 第1期人口ビジョン期間中の将来展望人口	2
4. 東栄町の人口等の現状	2
・図表2 人口・世帯の推移	2
・図表3 人口推移	3
・図表4 年齢3区分人口割合の推移	3
・図表5 自然動態の推移	4
・図表6 社会動態の推移	4
・図表7 第2期の将来展望人口等の比較	5
・図表8 第1期の将来展望人口（参考）	5
・図表9 町内総人口と年齢3区分人口の将来展望	6
・図表10 産業3分類就業者数の推移	6
・図表11 地域内経済循環の状況	7
・図表12 新城・北設地域の人口一人当たりの市町村民所得	7
・図表13 東栄町の年齢階層別未婚率の推移	8
・図表14 国・町の未婚率の比較	8
・図表15 国・県・町の合計特殊出生率の推移	9
・図表16 出生数と小学校入学時点の人数比較	9
・図表17 小中学校の一学年の平均児童数の推移	10
・図表18 交通事情の変化	10
・図表19 将来の施設・設備更新費用	11

1. 東栄町人口ビジョンの位置づけ

東栄町人口ビジョンは、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」に基づき、本町における人口の現状を分析し、将来の人口展望や目指すべき方向性を示すものです。本ビジョンは、「東栄町まち・ひと・しごと総合戦略」及び「第6次東栄町総合計画」の基礎となります。

2. 東栄町人口ビジョンの対象期間

本ビジョンは、国立社会保障・人口問題研究所の人口推計をもとに、政策誘導の効果を加味して展望しています。対象期間は、令和22年（2040年）です。

3. 東栄町人口ビジョン策定の考え方

将来人口展望は、第1期と比較して町を取り巻く環境に大きな変化がないため、第1期の方針を引き継ぎます。

(1) 第1期人口ビジョンにおける将来展望人口の考え方

ア) 三つの視点

- ① 球技など学年単位での集団行動を可能にするため、小中学校において1学年16～18人の生徒数を確保する。
- ② 生産年齢人口の減少を抑制し、平成22年(2010年)の1/3程度になることが見込まれる数値を、5割以上かさ上げする。
- ③ 年少人口と生産年齢人口の合計が老年人口を上回る年齢構成を実現する。

イ) 将来展望人口の積算方法

図表1

	積算方法
基準推計値	国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口
合計特殊出生率の向上	・令和12年まで：1.52～1.54(実績に基づき算出) ・令和12年から：国の目標水準である1.8に上昇
移住定住施策の推進	・2世帯（大人：男女各2名、子ども：男女各1名）の転入 ・若者2名（大人：男女各1名）の転入 ・2世帯（大人：男女各2名、子ども：男女各1名）の転出抑制

(2) 第1期人口ビジョン期間中の将来展望人口

: 令和22年(2040年) 2,250人

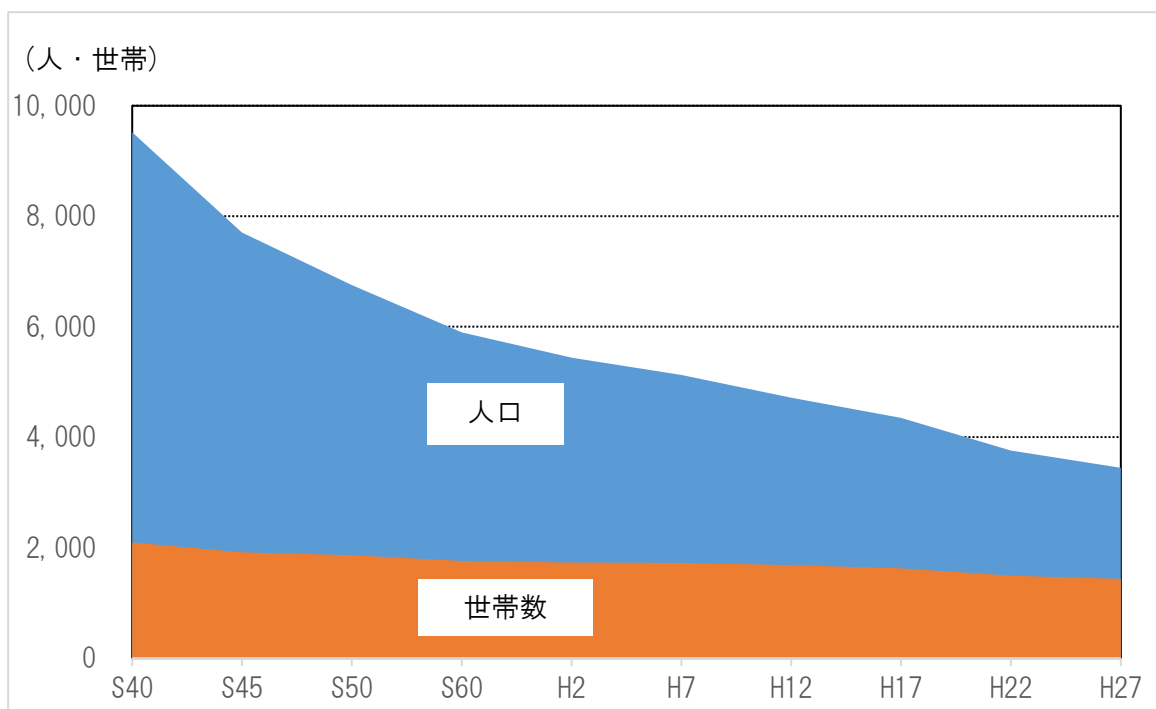
第2期では、第1期の将来展望人口の考え方や積算方法を引き続き利用します。なお、人口推計は、国立社会保障・人口問題研究所が提供するデータ、算式を用いて算出します。

※第1期の人口推計は、当初、平成22年(2010年)国勢調査の男女・年齢別人口を基準に、人口動態率や移動率などの仮定値を当てはめて将来人口を計算したため、当初の将来展望人口を2,100人としていました。しかし、平成27年(2015年)国勢調査の確定値が平成30年度に発表されたことに伴い再計算したところ、近年の移住者の増加等が反映され、将来展望人口を2,250人に上方修正しています。

4. 東栄町の人口等の現状

図表2 人口・世帯の推移

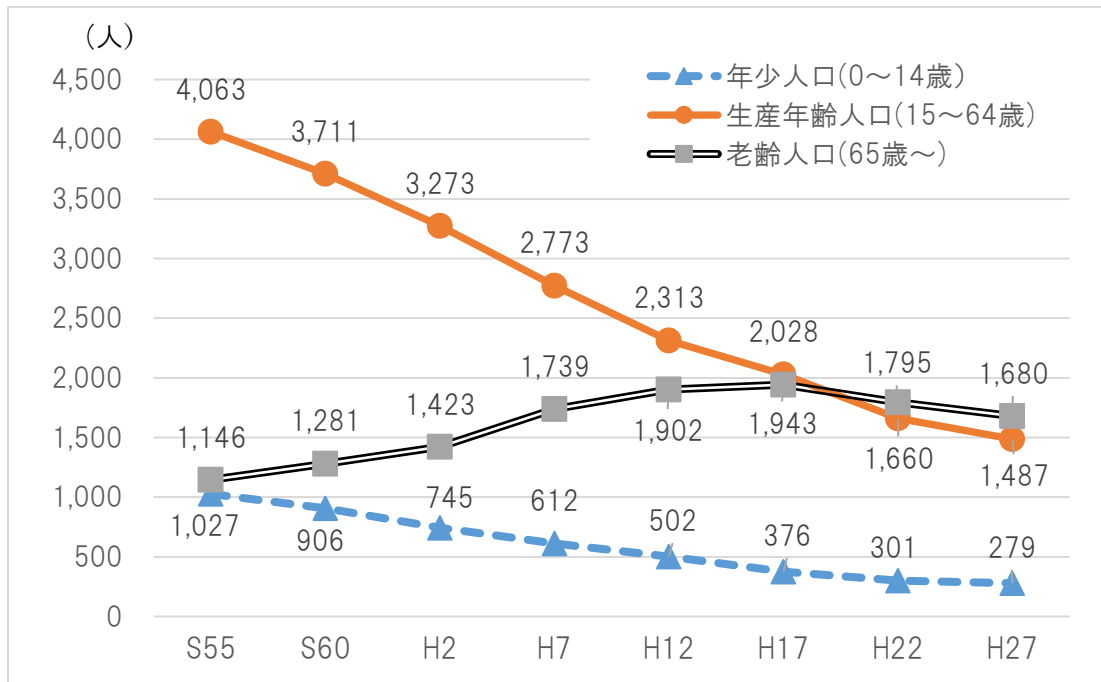
・人口、世帯ともに減少しているが、人口の減少に対し、世帯数の減少は小さい。



(出典：国勢調査)

図表3 人口推移

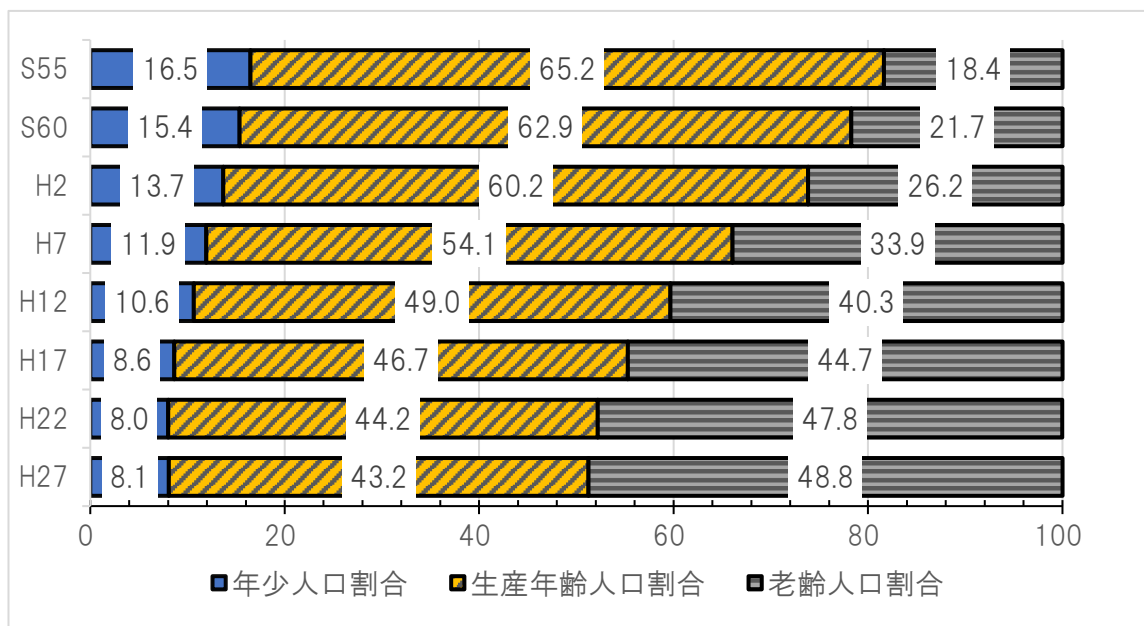
- ・人口減少に伴い、年齢3区分人口すべての区分において減少が見られる。
- ・平成22年(2010年)には、高齢人口が生産年齢人口を上回った。



(出典：国勢調査)

図表4 年齢3区分人口割合の推移

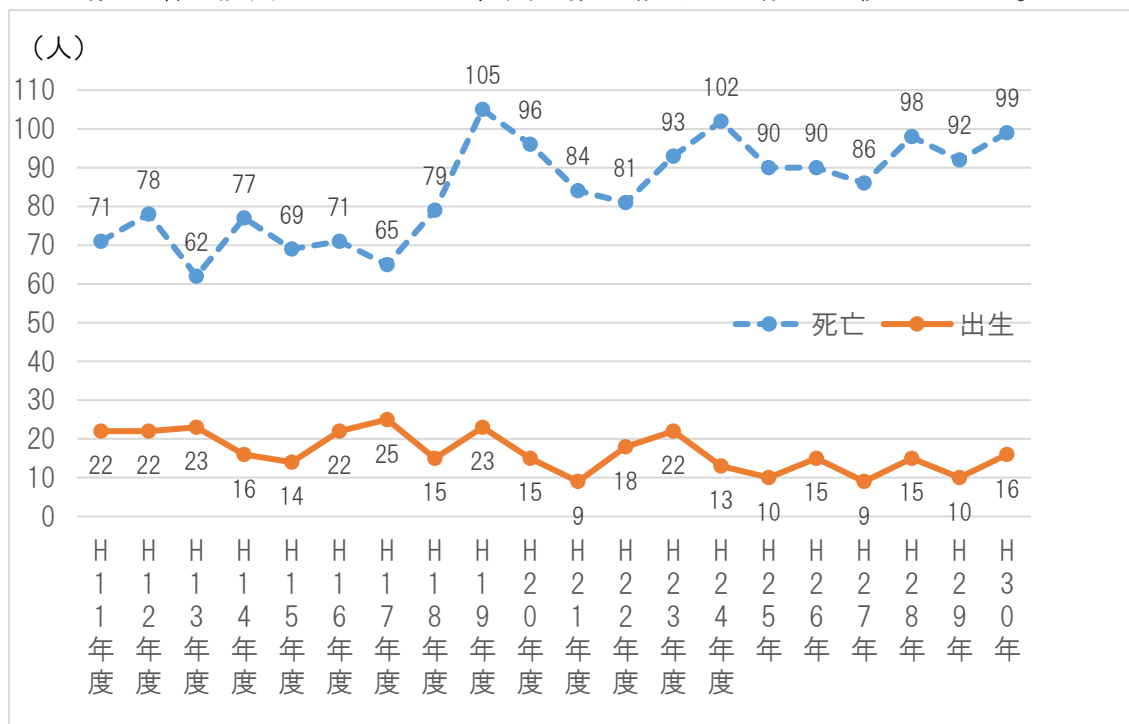
- ・年少人口の割合は半分となった。
- ・生産年齢人口は、5割を下回った。
- ・高齢人口は、約5割に近づいている。



(出典：国勢調査)

図表5 自然動態の推移

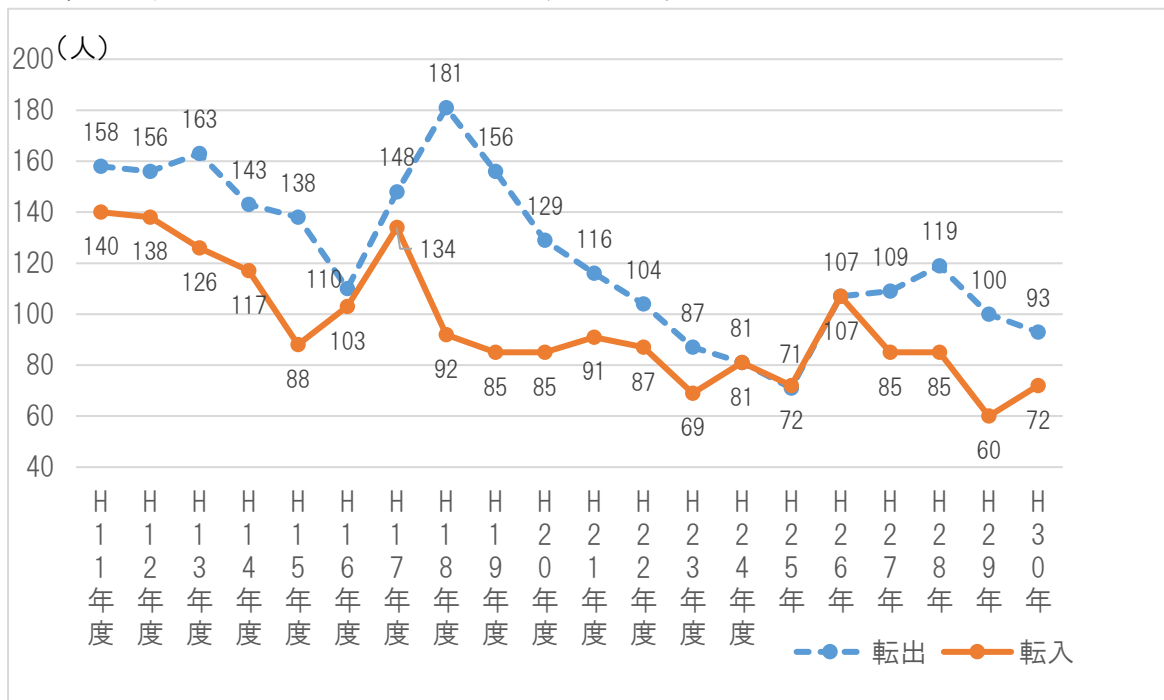
- ・死亡数と出生数の差が大きくなっている。
- ・死亡数が増加傾向にある一方で、出生数は緩やかな減少が続いている。



(出典:愛知統計年鑑 ※平成25年(2013年)からは1~12月データに変更されている。)

図表6 社会動態の推移

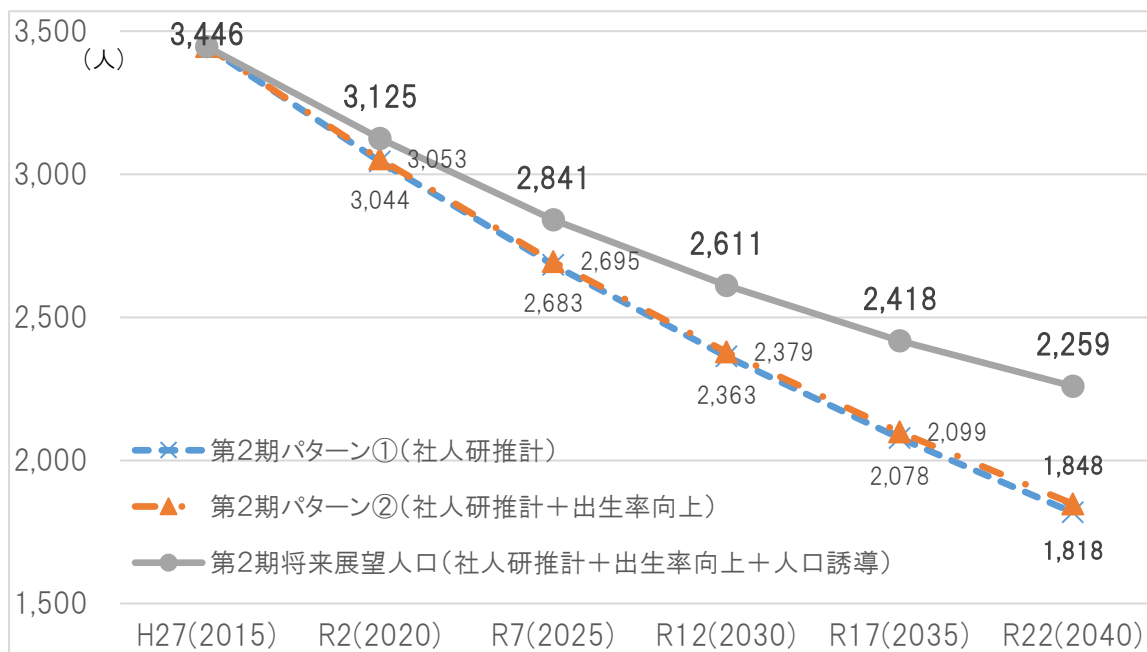
- ・平成24年度(2012年度)及び平成25・26年(2013・2014年)は企業移転や空き家活用住宅等の整備により転入が増加した。



(出典:愛知統計年鑑 ※平成25年(2013年)からは1~12月データに変更されている。)

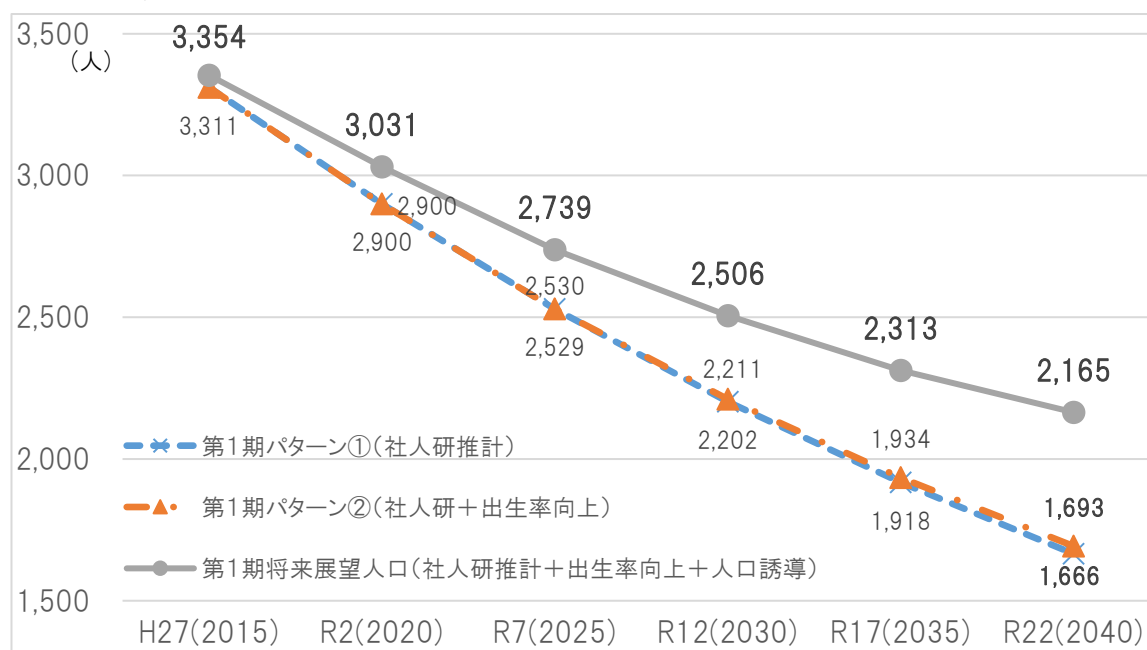
図表7 第2期の将来展望人口等の比較

- ・第1期と第2期の国立社会保障・人口問題研究所の推計値のみを比較した場合でも、令和22年（2040年）の人口は1,666人から1,818人に上昇している。
- ・いずれも場合も、合計特殊出生率の向上に取り組むだけでは、推計値からの人口の上昇は令和22年（2040年）で見ても30人程度に留まるが、移住定住施策等による人口誘導によってさらに400人程度人口が上昇する見込みとなっている。



(出典：国立社会保障人口問題研究所提供データ)

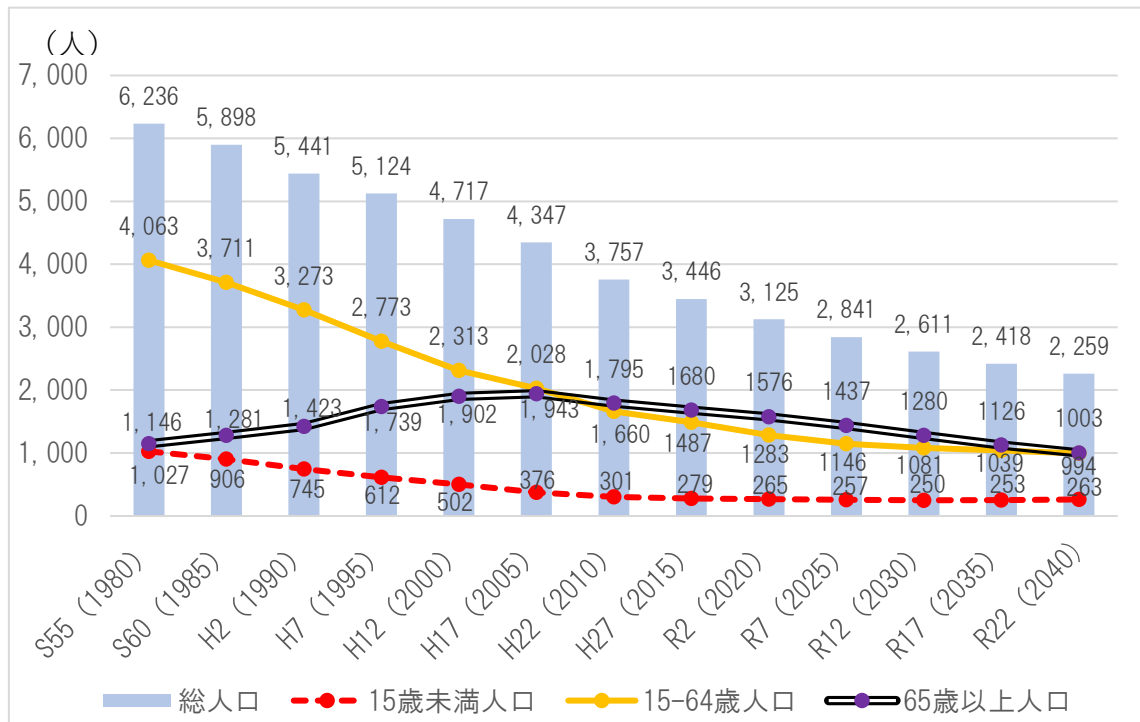
図表8 第1期の将来展望人口（参考）



(出典：国立社会保障人口問題研究所提供データ)

図表9 町内総人口と年齢3区分人口の将来展望

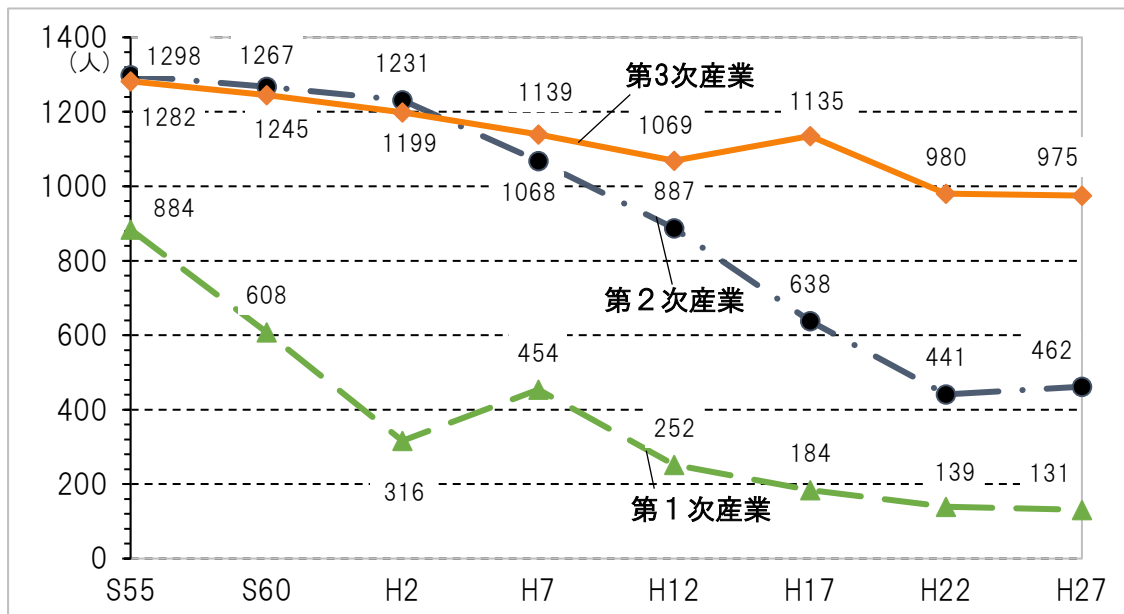
・平成27年(2015年)国勢調査数値による再計算により、平成30年度(2018年度)に将来展望人口を2,100人から2,250人へ上方修正した。



(出典：国立社会保障人口問題研究所提供データ)

図表10 産業3分類就業者数の推移

・第2次産業が減少し、第1、第3次産業は下げ止まっている。

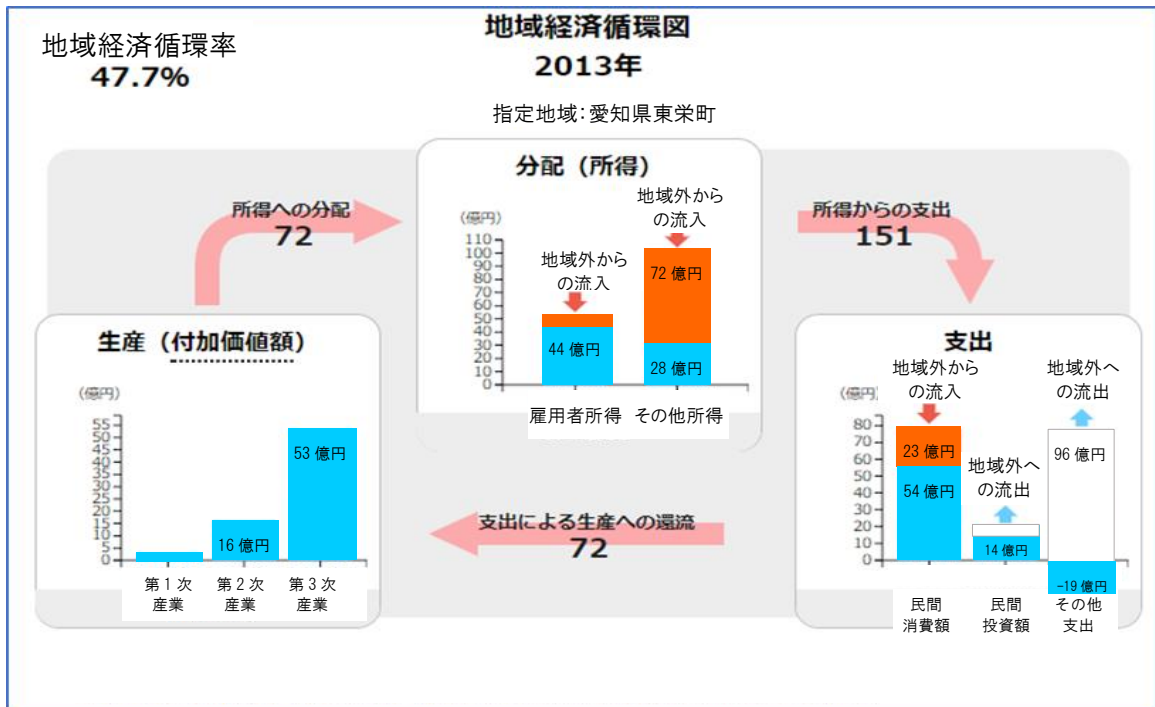


(出典：国勢調査)

第1次産業：農林漁業、第2次産業：鉱業・建設業・製造業、第3次産業：上記以外

図表 1 1 地域内経済循環の状況

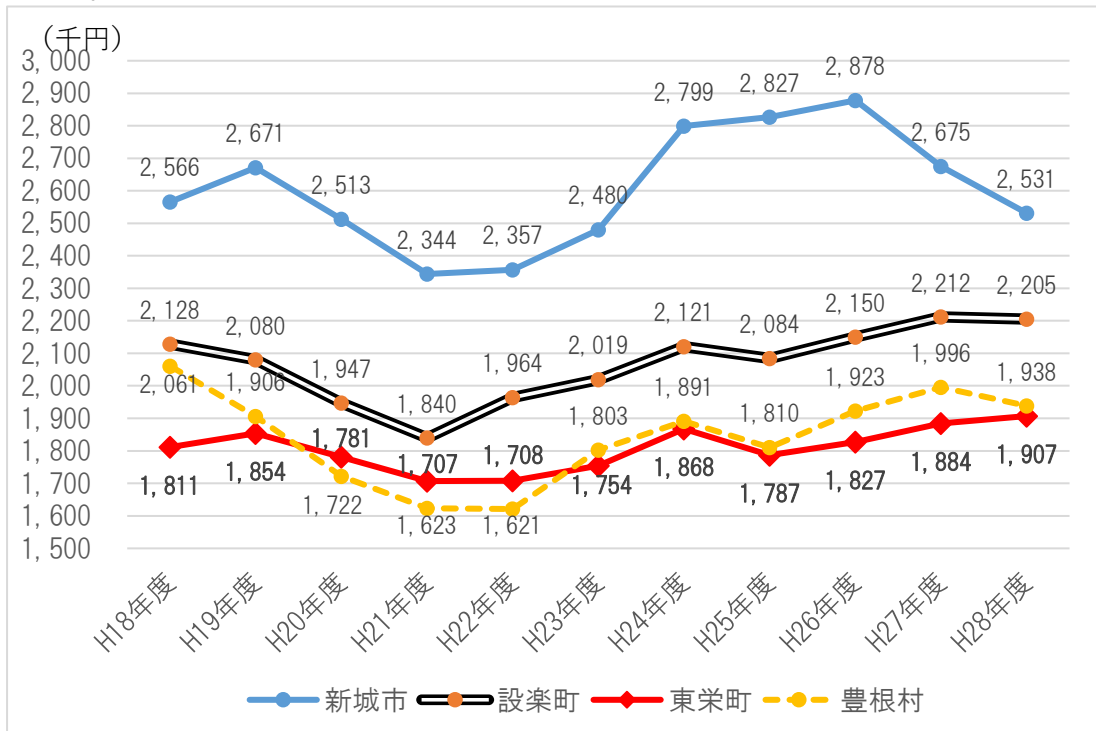
- ・地域外から所得を得る部分も多いが、それ以上にその他所得は地域外へ流出しており、地域にお金を留めることが出来ていない。



(出典: 地域経済分析システム)

図表 1 2 新城・北設楽地域の人口一人当たりの市町村民所得

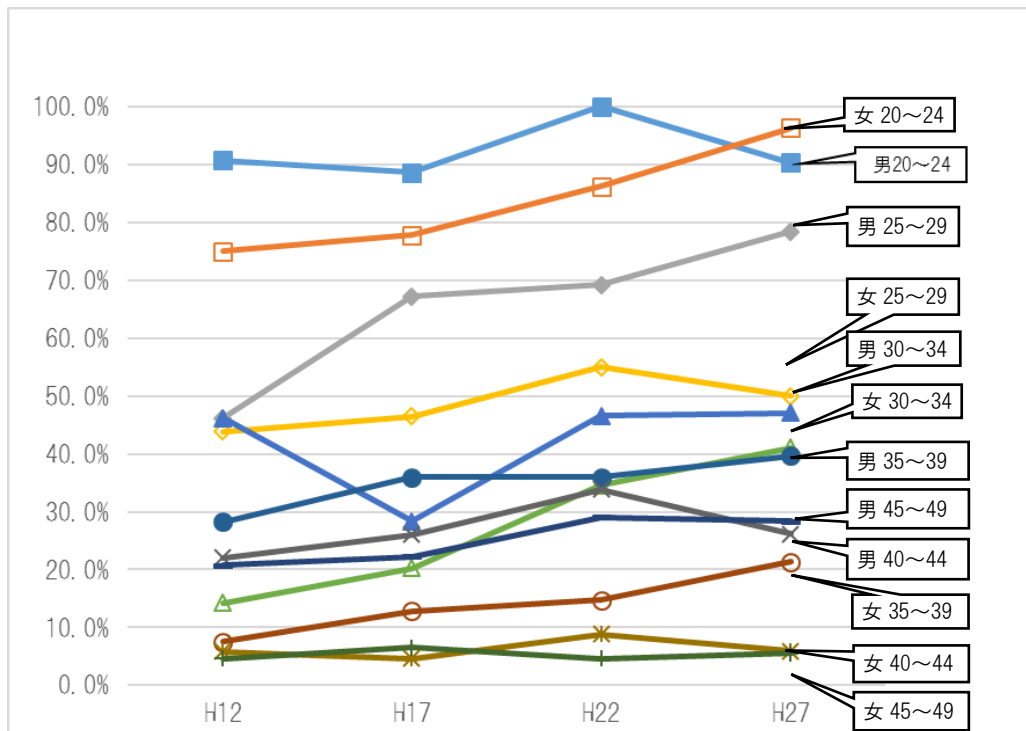
- ・平成 25 年度(2013 年度)以降、上昇しているが依然として県内最下位となっている。



(出典: あいちの市町村民所得)

図表 1 3 東栄町の年齢階層別未婚率（20～49 才）の推移

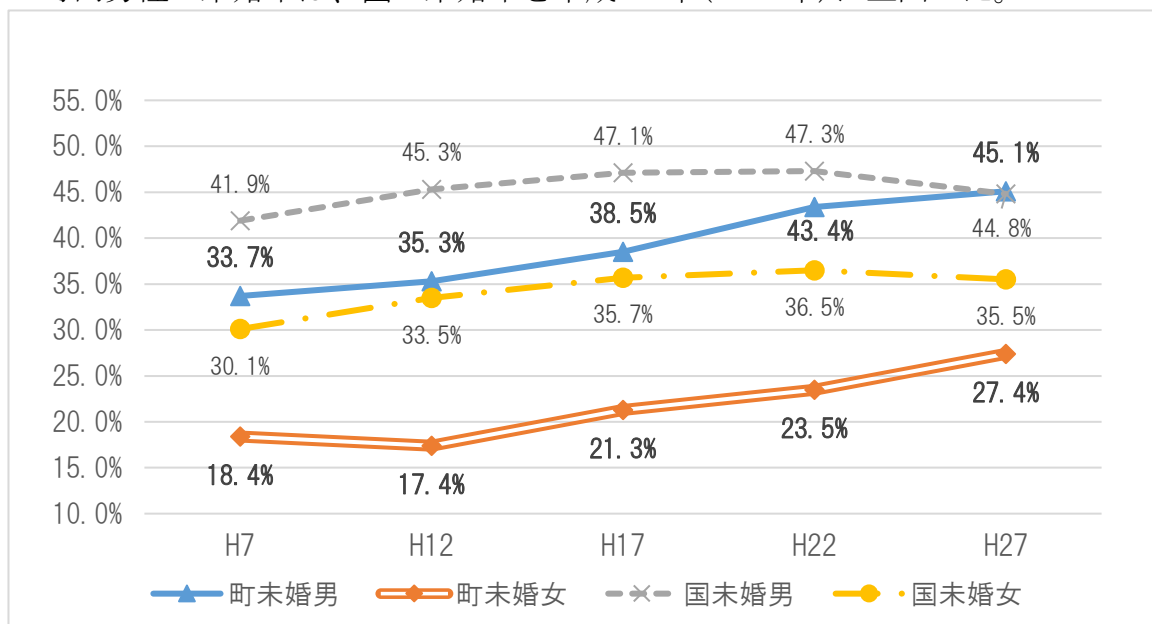
・未婚率は、20 代～30 代において上昇傾向にある。



(出典：国勢調査)

図表 1 4 国・町の未婚率の比較

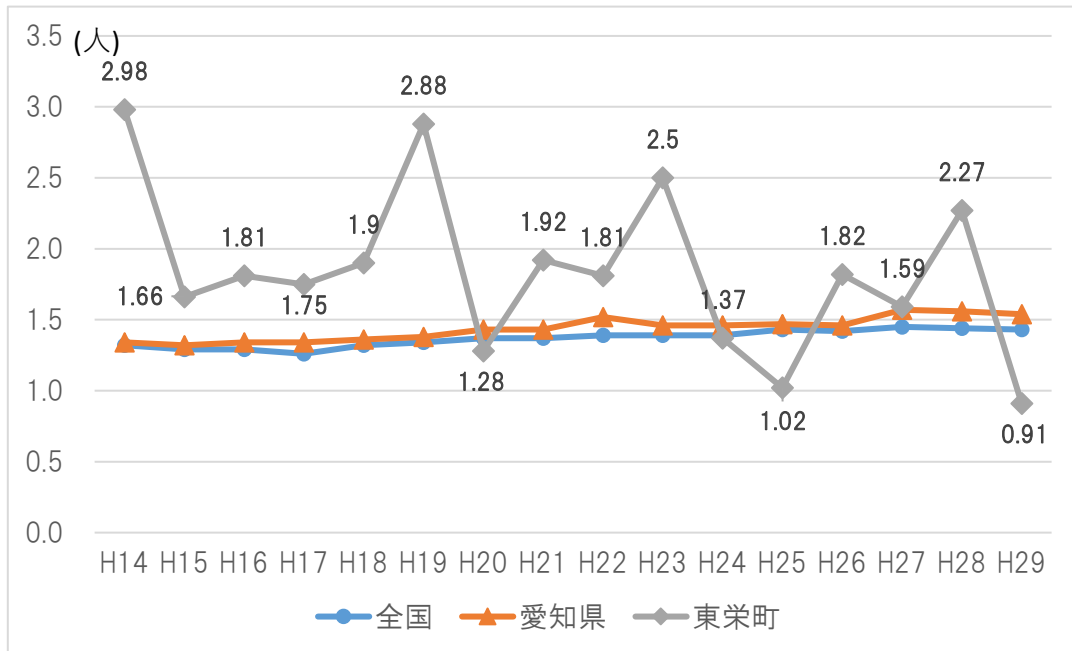
・町内男性の未婚率は、国の未婚率を平成 27 年(2015 年)に上回った。



(出典：国勢調査)

図表 1 5 国・県・町の合計特殊出生率の推移

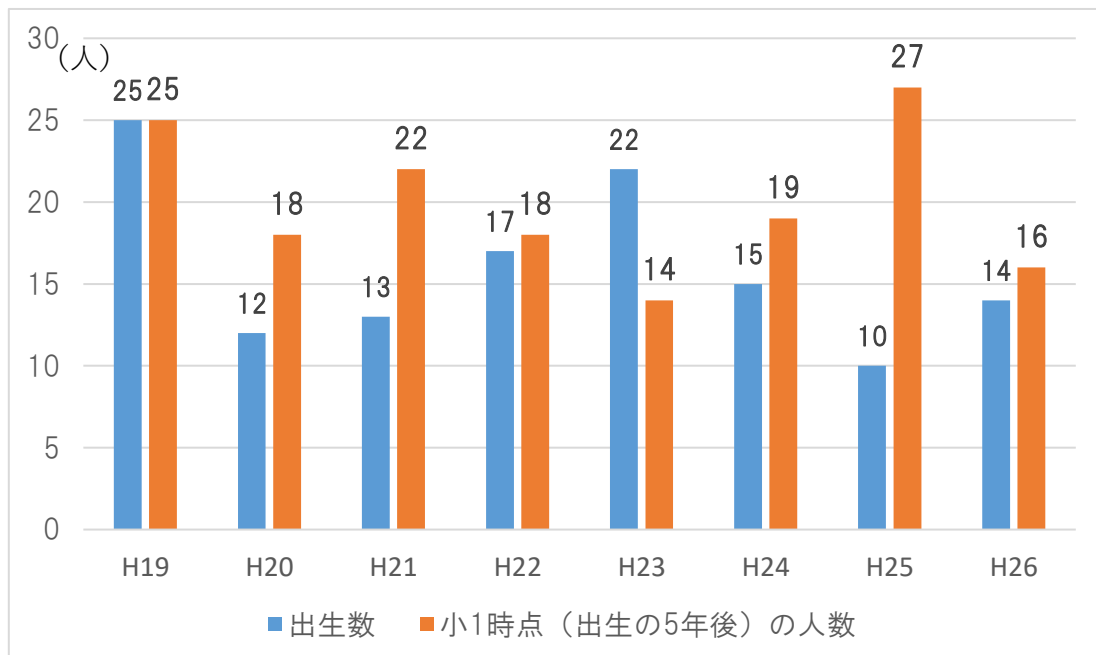
- ・約5年周期で2.0を超える年があるものの、減少傾向にある。
- ・母数が少ないため、乱高下する。



(出典：国：人口動態統計、県：愛知県統計年鑑、
町：愛知県衛生年報及び人口動態調査女性人口)

図表 1 6 出生数と小学校入学時点の人数比較

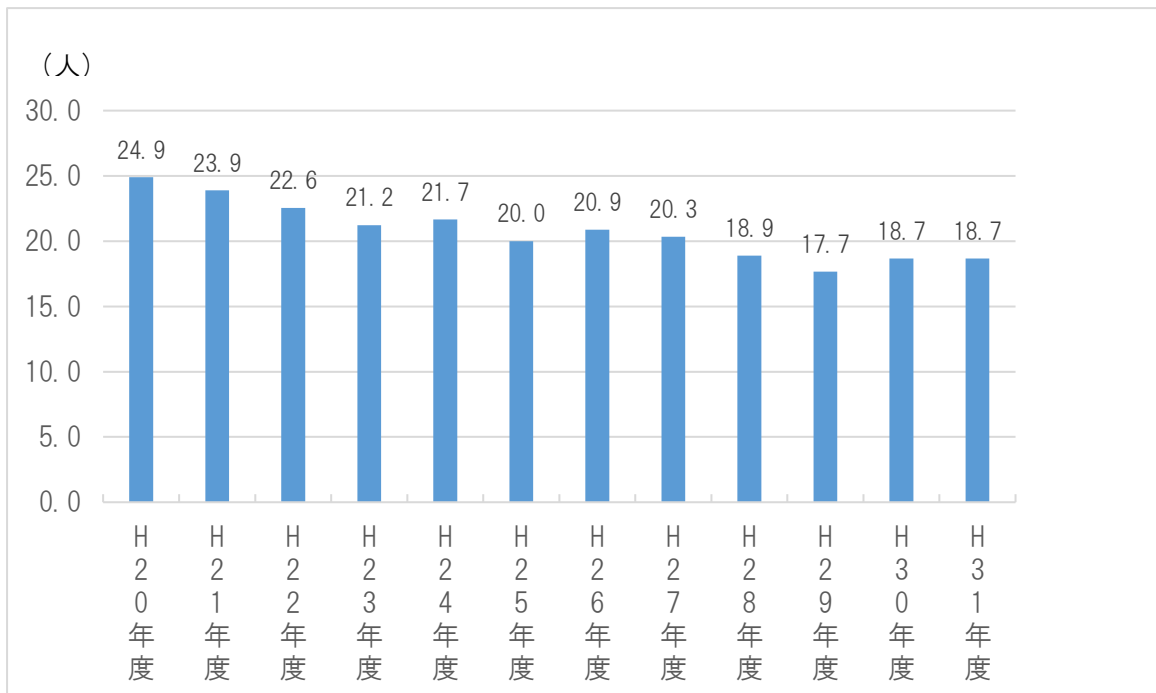
- ・出生数に比べ、小学校入学時点人数の方が大きい傾向にあるため、入学前児童の転入が発生していることがわかる。



(出典：出生数：愛知衛生年報 (10月1日時点)
小学校入学時点人数：町教育委員会 (4月1日時点))

図表 1 7 小中学校の一学年の平均児童数の推移

・約5年周期で増減しつつ、長期的には下落傾向にある。



(出典：町教育委員会 ※各年度4月1日時点)

図表 1 8 交通事情の変化

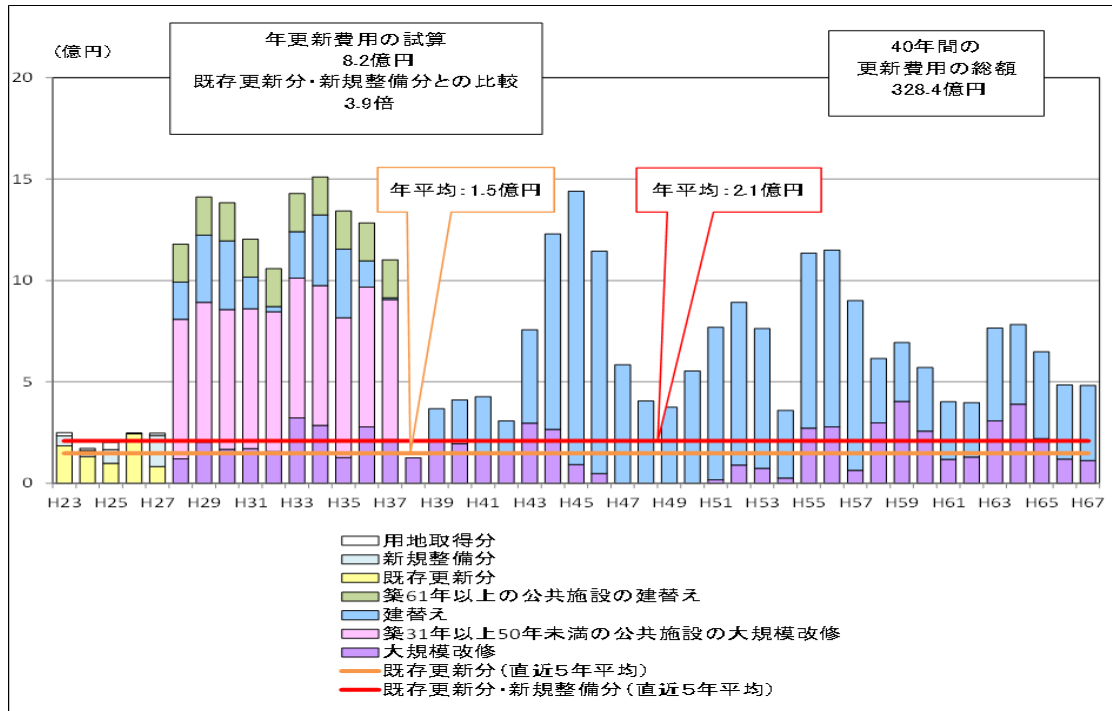
- ・三遠南信自動車道は、平成24年(2012年)3月に「鳳来峡IC-浜松いなさ北IC」間が、同年4月に「浜松いなさ北IC-浜松いなさJCT」間が開通し、浜松市や東名・新東名高速道路へのアクセスが著しく向上した。
- ・平成31年(2019年)3月の「東栄IC-佐久間川合IC」間の開通に伴い、来訪客の増加や客層の変化を感じる事業者もいる。



図表 19 将来の施設・設備更新費用

・施設・設備の更新時期が、令和7年度(2025年度)までに集中している。

(出典：東栄町公共施設管理計画¹)



¹ 本データは平成28年度に策定した東栄町公共施設管理計画の中で、公共施設の維持管理負担が重要課題である点を踏まえ作成されたものを抜粋。計画で対象としているすべての施設を更新等した場合の費用負担をグラフ化している。